

**医療データ人材育成拠点形成事業
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	2
代表校名 (連携大校名)	京都大学(大阪大学、神戸大学、滋賀大学、鳥取大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、兵庫医科大学、関西医科大学、近畿大学)計11大学		
事業名	関西広域 医療データ人材教育拠点形成事業		
事業責任者	大学院医学系研究科長 岩井 一宏		
事業の概要			
<p>本拠点形成事業では、次世代医療基盤や保健医療データプラットフォームに蓄積されるデータを活用し、医療データサイエンスの国際的牽引役を担えるよう本邦の医療データサイエンスを発展させるために、医療データが生まれてから活用されるまでの情報流の始点から終点までを確実に支え、正しく統制できる人材の育成を行う。具体的には、関西健康・医療創生会議の元に集う関西の大学各々の強みを活かし、代表機関である京都大学が取り纏める修士レベルの基本プログラムと、創生会議が関西広域連合(官)と関西経済連合会(産)のニーズに応じて参加各大学(学)に開発させて提供するインテンシブプログラムを通じて、医療データ利活用基盤を構築・運営できる「基盤人材」、データを適切に利活用できる「活用人材」、及び、医療データ活用の全体を律し、社会的コンセンサスの醸成する「統制人材」を育成し、本邦医療データサイエンスの発展を支えることを目指す。</p>			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○データサイエンス学部を擁する滋賀大学をはじめとする複数大学との連携のほか、NDB解析事業に従事する研究者の参画等、実践的な教育・研修が期待できる。</p> <p>○一般社団法人ライフデータイニシアティブ等と連携することで、次世代医療基盤法に沿った匿名加工医療情報を扱う点が評価できる。</p> <p>○産官学連携会議体の下に事業の運営調整を行う事務局を置くことで、産官のニーズを適切に反映した人材育成を行うことは、評価できる。</p> <p>●主要講座の継続が概算要求ベースとなっている等、事業の継続に関して懸念がある。</p> <p>●連携校との連携体制が不明確であり、指導方針や指導責任などが散漫にならないか懸念がある。</p>			